

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870103946
法人名	有限会社 ベターライフ・U
事業所名	グループホーム四葉のクローバー
所在地	松山市石風呂町甲1014番1
自己評価作成日	平成24年6月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年7月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

明るい日差しの中で、午前中は体操や散歩に取り組み、午後は利用者様一人一人ゆったりと生活して頂いている。又、食べる事は喜びでもあり、健康管理の維持でもある為、施設の畑で収穫した新鮮な野菜を使用し、バラエティー豊かなメニューを楽しんで頂けるように、又、希望メニューの日を決め、一人一人に楽しんで頂けるよう支援している。
個人別に、リハビリ、手伝い等を行い、出来る範囲の事を継続して頂けるよう働きかけを行っている。言葉使いや態度、接遇に力を入れている。
利用者様が笑顔で過ごされるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●日常的には、ほぼ毎日のように全員の方が交代で事業所周辺を散歩されている。調査訪問時、帽子をかぶり、職員と一緒に散歩に出かけていく利用者の様子がうかがえた。月に1度は、全員で外出できるよう計画を立てておられる。
●運営推進会議には、地域の方やご家族、利用者にも参加していただいている。ご家族は、ユニット毎に一人ずつ毎回違ったご家族に参加していただけるようお誘いし、利用者はなるべくご家族と一緒に参加できるよう配慮されている。又、職員も交代で参加することにより、地域の方にも顔を覚えていただけるよう取り組まれている。以前に、メンバーから、「夜間の様子を知りたい」との希望があったことをきっかけに、利用者の起床時や夜間の様子、一週間の食事等についても画像で紹介された。ご家族からは、「こんなことまでしていただいているのですね」と感謝の言葉をいただいた。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらい				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらい				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらい				2. 職員の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 職員の1/3くらい
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらい				2. 利用者の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 利用者の1/3くらい
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族等の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族等の1/3くらい
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらい				
			3. 利用者の1/3くらい				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まれます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム四葉のクローバー

(ユニット名) 2階

記入者(管理者)

氏 名 對馬 優子

評価完了日 平成 24 年 6 月 30 日

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価)	
			毎朝の朝礼で理念の読み合わせし業務の実践に繋げている。又、職員全員理念カードを携帯しており意識の向上に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(外部評価)	
			「健康・愛情・幸福・希望」を、事業所理念に掲げておられ、「元気で生き生きと生活していただきたい」という法人の考えのもと、事業所では、お天気が悪くない時には毎日、散歩に出かけられるよう取り組まれている。ユニット毎に年間目標を決め、又、職員も、個々に目標を立て、3ヶ月毎に振り返り、管理者がコメントを書いたり面談して、個々に目標を達成できるよう応援されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価)	
			運営推進会議を通じ地域住民の方々へ認知症の人の理解や支援の方法を伝えている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価)	
			毎回利用者様、家族様に参加頂き、テーマを作り説明させて頂いている。感想や意見を頂き、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(外部評価)	
			会議には、地域の方やご家族、利用者にも参加していただいている。ご家族は、ユニット毎に一人ずつ毎回違ったご家族に参加していただけるようお誘いし、利用者はなるべくご家族と一緒に参加できるよう配慮されている。又、職員も交代で参加することにより、地域の方にも顔を覚えていただけるよう取り組まれている。以前に、メンバーから、「夜間の様子を知りたい」との希望があったことをきっかけに、利用者の起床時や夜間の様子、一週間の食事等についても画像を使って紹介された。ご家族からは、「こんなことまでしていただいているのですね」と感謝の言葉をいただいた。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価)	
			ミーティングで勉強会を行い、全職員、身体的、精神的拘束について理解し、拘束しないケアを実践している。	
			(外部評価)	
			玄関の扉を開けておられ、ユニット入り口の扉には鈴等を付け、扉を開閉すると鳴るようになっていた。もしもの時のために、利用者個々の写真や特徴を書いた「緊急時ファイル」を用意されている。毎年、利用者が行方不明になった時の捜索訓練を実施されており、6月に実施した際に参加していただいた地域の方から、「デジカメで毎朝写真を撮り、服装が分かれば捜索しやすいのではないか」と提案があり、事業所では毎朝、利用者数名ずつが写るように写真を撮り、いざという時の備えをされている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)	
			外部研修に参加したり、ミーティングで勉強会を行い、虐待防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)	
			社内研修に講師を招き学ぶ機会がある。現在対象者がいないので、必要時は説明できるように理解を深めたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)	
			契約時には、本人様、保証人、施設長、管理者と立ち合い、契約書の読み合わせ等、十分時間を掛けて理解、納得を図るよう行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)	
			利用者様からは、日々の生活の中で意見、要望を伺っている。家族様からは、ケアプラン更新時や面会時に意見、要望を伺い、日々の支援に反映されるよう努めている。	
			(外部評価)	
			外出行事や事業所で行うバーベキューやそうめん流し、花火大会等、ご家族に参加していただける行事を多く計画して、ご家族が利用者と一緒に楽しく過ごす時間作りに取り組まれている。3ヶ月ごとに発行する事業所便りにて職員の紹介をされたり、家族会や運営推進会議時には、職員の異動について報告されている。ご家族の来訪時には、管理者や担当職員が近況を報告され、意見や要望等をお聞きのしている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			ミーティングや朝礼で意見交換する機会がある。又、いつでも職員の意見や提案に耳を傾け、反映されている。	
			(外部評価)	
			行事ごと職員は交代で担当されており、外出先の下見に行く等して、計画を立てておられる。毎朝の朝礼に週2回、法人代表者が出席されて、職員は、気軽に意見や要望を伝えておられる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			会社の就業規則で決められている。管理者は休日希望、有給休暇の使い方についても前もって聞き、シフトを組まれている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			積極的に外部研修に参加出来るように取り組みしている。職員の学びたい事を事前に聞いており、職員一人一人にあった研修に申し込みし、参加できている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価)	
			外部研修で同業者と話す機会がある。施設長はネットワーク作り、横との繋がりを大切にするように話があり、サービスの質の向上させていく取り組みをしている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			入居前のアセスメントにユニット職員が同行し、情報を得ている。本人様に困っている事、不安な事、要望について伺い、職員全員に周知徹底し、安心して入居出来るよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が 困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾け ながら、関係づくりに努めている	(自己評価)	
			入居前には実際にホームを見学して頂き、不安な事、要望 等を聞き、お答えする事で、安心して頂いている。良き関係 作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族 等が「その時」まず必要としている支援を見極 め、他のサービス利用も含めた対応に努めてい る	(自己評価)	
			ホームでの生活に慣れて頂けるように、アセスメントし、本人 様、家族様が必要としている支援を見極め、支援している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、暮らしを共にする者同士の関係を築いてい る	(自己評価)	
			利用者様の希望を聞き、出来る事をお互いに探し、協力しな がら暮らされている。暮らしを共にする者同士の良き関係を 築くよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本 人を支えていく関係を築いている	(自己評価)	
			毎週定期的に面会に来られる家族様も居られる。本人様の 様子や状態を報告し、本人様と家族様の絆を大切にしてい る。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めてい る	(自己評価)	
			家族様や親族の方の面会がほとんどであるが、知人の方が 来られる事もあり、懐かしそうに話をされている。馴染みの場 所へは家族様と出掛けられる方も居るが全員ではない。	
			(外部評価)	
			居室にご本人が設置した固定電話や、携帯電話でご家族や 友人に電話する方もいる。これまで島で生活されていた複数 の利用者の方からは、「島に帰りたい」「お墓参りに行きたい」 等の希望も聞かれ、職員は、ご家族に伝えるようにされてい る。さらに、利用者一人ひとりが「その人らしく」暮らし続けら れるよう、懐かしい場所や思い出の場所等を探り、お話し たり、出かけてみるような個別の取り組みもすすめてみてはど うだろうか。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 気の合う利用者様同士で、手伝いをされたり、助けあいの場面がある。口論になる事もあるが、大きなトラブルにならないように職員が間に入り緩和している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居後のフォローは主に施設長、管理者が行っている。職員が面会やお見舞いに行く事もあり、これまでの良い関係が途切れないように努めている。月末ハガキは退居されてから翌月も送るようにしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活の中で会話から、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は選択肢を増やしたり、家族様から伺い、把握に努めている。 (外部評価) 「朝、もうちょっとゆっくり寝たい」「花が好き」「買い物に行きたい」等、利用者の好みや意向を職員はよく知っておられる。	職員は、利用者個々の思いや暮らし方の希望、意向等を知っておられるが、基本的に「みんな一緒に」という方針から、個別支援を行うことが難しい現状があるようだ。利用者一人ひとりがその人らしく暮らし続けることを支援することは、グループホームの特徴でもあり、利用者から得た思いや意向を大切に、介護計画につなげて個別で細やかな支援に取り組んでいかれてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前のアセスメントを十分に行い、これまでの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境等、把握に努めている。得た情報は、全職員で共有し、把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 体調やその時々で変わってくるが、利用者様が示される態度や表情、言葉から状態の把握に努めている。毎日定時にバイタル測定し、健康面でも状態の把握に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			毎月モニタリングをして評価している。ケアプラン更新時に課題とケアのあり方について検討し、より良い暮らしになるように努めている。	
			(外部評価)	
			ご家族の来訪時等には、担当職員が支援に対する希望等をお聞きしている。計画の作成は、担当の職員が中心で行なっておられるが、モニタリングは月に1度、職員個々に利用者についてモニタリングして、カンファレンスの時にそれを出し合って話し合い、計画の見直しは、基本的に3ヶ月毎にされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			ケアプランの内容に沿った記録を心がけているが、日々のケアの実践、結果、工夫等の個別記録には至っていない。家族様や利用者様との会話も記録に残し、ケアの質向上に活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			病院受診等、可能な範囲で柔軟に取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			保育園や小学校との交流会や、地域の公民館での行事に呼んで頂いて参加している。利用者様にあった行事にそれぞれ参加している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) ホームのかかりつけ医の受診も受ける事が出来るが、これまでにかけられていた病院を継続して受けられる方もあり、適切な医療を受けられるよう支援している。	
			(外部評価) 協力医療機関をかかりつけ医とされる方は、2週間に1度、往診があり、又、職員が同行して定期受診する方もある。他の医療機関をかかりつけ医とされる方の受診については、ご家族が付き添われている。すべての利用者において、発熱等の体調変化がある時は、協力医療機関が対応して下さるため、ご家族の了承のもと、入居時に利用者個々の身体状況等について、協力医療機関に情報提供されている。又、すべての利用者は、年に1度、協力医療機関で定期健診を実施されている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 毎日のバイタルサイン、排尿、排便をチェックし、異常がある時は、看護師へ報告、相談している。必要があれば、早急に主治医に診て頂いている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入院した場合は、主に施設長、管理者が医療機関との情報交換をしている。知り得た情報は職員にも申し送りがあり、退院後、スムーズに復帰出来るよう支援している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 施設の方針で看取り支援は行っていない。入居前に十分説明している。医療行為が常時必要となった場合や、重度化した場合の対応を早い段階で家族様と話し合いをしている。	
			(外部評価) 入居時、「最期までここで」と、希望されるご家族が多いようであるが、管理者は、「医療機関の系列でなく、又、看護師が一人ということもあり、事業所では終末期の支援は行わない」ことを説明されており、又、「できる限りの支援を行い、次のところには責任を持ってつなぐ」ことを話しておられる。管理者は、ご家族に特別養護老人ホームの申し込みについて話をされることもあるが、今後のことについて具体的に話し合っている方は少ない。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) ミーティング時に毎月テーマを決め、緊急時の対応についてシミュレーションしている。実際に行動出来るように今後も継続して実践力を養いたい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回、消防、防災訓練を行い消防職員からアドバイスを頂いている。又、地域の自主防災フェスティバルに参加し、意識を高めている。 (外部評価) 5月に実施した火災による避難訓練は、1階を出火場所に想定して行われた。2階ユニットの利用者は、外階段を使って職員と一緒に降り、1階の利用者は、非常口より避難をされた。地域の自主防災会会長にも参加していただき、訓練を見学していただいた。地震等の自然災害に備えて、車のガソリンの給油を小まめにされたり、米・水・布団・毛布を備えておられる。	事業所では、今後、近所の方で、「いざという時に助けに来ていただける方を増やしたい」と考えておられる。これまで作ってきた地域とのネットワークを活かして、事業所の避難訓練時にも参加していただく等して、より具体的に協力体制を作っていかれてほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ミーティングで勉強会を行ったり、朝礼時施設長、管理者より話があり、一人一人のプライバシーを尊重し、損なわないように、努めている。 (外部評価) 職員は、「利用者の言葉を聞き逃さない」ことや「恥をかかさない」よう対応することに気を付けておられる。日曜日の朝は、コーヒーやメロンソーダ、ココア等、数種類の飲み物の中から利用者個々に好みの物を選んでいただき、お茶の時間を楽しんでいた。パンのお好きな方が多いことから、週に1度は、朝食にパンの日を作ったり、木曜日はパン屋さんが来てくれて、好みのパンを購入し、おやつで食べる日になっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者様の希望に沿えるように支援している。毎週日曜日に希望メニューの日になっており、食べたい物を希望されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者様の希望を優先するよう心がけている。職員の都合で希望に沿えない時は説明をさせて頂き、納得して頂いた上で行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) お化粧をされる利用者様も居られる。更衣時にご自分で着たい服を選び着られている。ご自分で準備出来ない方は声掛けし選んで頂いている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一人一人の能力に合わせ、台拭き、下準備等手伝いをされている。また味見をされ、アドバイスを頂く事もある。 (外部評価) 週3回、昼・夕食の6食分は業者の決まったメニューの中から、職員が利用者の好み等を考慮して選択し、配達してもらっている。その他の日は、職員と利用者が一緒に食材の買い物に出かけ、調理をされている。法人の畑で採れた野菜もよく利用されている。調査訪問時は、事業所で食事を手作りされており、職員がおかずの中のズッキーニやかぼちゃ、青しそ等を「畑で採れたものですよ」と説明されていた。又、当日は、土用の丑の日でもあり、鰻のイラストや「夏を乗り切りましょう」と書かれたカードが食事に添えられてあった。日曜日の昼食は、順番に利用者一人ひとりの希望をメニューに採り入れておられる。利用者は、ご自分の順番が来るのを楽しみにされている。調査訪問時、食前の口腔体操の後、職員が「今日は何の歌を歌いますか」と利用者問いかけられ、数名の利用者が「七夕」と答えられ、皆で歌を歌う様子がうかがえた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 週3回の配食サービスを利用し、栄養バランスの良い食事を提供している。一人一人の食べられる量、状態や能力を把握するよう努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の声掛けで習慣になっている方も居られる。介助、見守りが必要な方には付き添い、口腔内が清潔に保てるよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			個人の排泄パターンやタイミング、声掛けの仕方等、細かく把握するよう努め、自立支援に努めている。パットの装着が難しい方は、その都度職員が付き添い、装着の仕方を説明し、習慣になるように根気強く対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(外部評価)	
			事業所では、できるだけトイレで排泄できるよう支援されている。入居時、リハビリパンツにパッドを使用されていた方も、排泄パターンを把握して声かけ等を行うことで、布パンツにされたり、パッドの当て方が上手いかなかった方は、その都度説明することで、3ヶ月ほどで自分で上手く当てられるようになり、トイレ動作が自立した方がおられる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			勤務の都合上、曜日や時間帯は決めさせて頂いている。入浴順は1番に入りたい方が多い為、不公平にならないよう順番を決め入って頂いている。入浴中は利用者様のペースに合わせ気持ちよく入浴出来るよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(外部評価)	
			基本的には午後から入浴時間とし、一日おきに入浴できるよう支援されている。入浴時間等について利用者からの希望は今のところないようだ。一人で入浴することを希望する方は、職員は扉の外から音等を聞きながら待機されている。5月の節句には、菖蒲湯を楽しまれた。シャンプー類は事業所で用意されているが、お気に入りのシャンプー等を使う方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	
			日中は食事等決まった時間以外は居室で休まれたり、利用者様のペースで過ごされている。夜間は安心して休んで頂けるように時間を決め巡視している。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人一人の薬情報を読み込み理解している。新しく処方された薬は、作用、副作用を確認し、症状の変化の確認や申し送りを徹底し、日誌、日報へ記録、周知している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 洗濯物量や調理、食器拭き等、能力に応じて、無理のない範囲で手伝いをして頂いている。又、ご自分から自分の役割を見つけ、積極的にされる方も居られる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 1日1回は散歩に出かけるよう支援している。その他にも週3回の買い物に同行されたり、月1回は外出に出られ季節の行事を楽しまれている。家族様と出かけられる方もいる。 (外部評価) 日常的には、ほぼ毎日のように全員の方が交代で事業所周辺を散歩されている。調査訪問時、帽子をかぶり、職員と一緒に散歩に出かけていく利用者の様子がうかがえた。月に1度は、全員で外出できるよう計画を立てておられる。いちご狩りや奥道後のさつき展、魚釣りをして釣った魚を食べられる食堂やキックボクシングの観戦等、毎年恒例となっている外出が多く、利用者からは、その季節になると「そろそろ行かんといかん」という声があるようだ。ファミリーレストランに外食に行かれることもあるようだ。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ほとんどの利用者様はお金を持たれて居ないが、中にはお小遣い程度のお金を持たれて居る方もいる。持たれて居る方も使用はされない。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 携帯電話を持たれている方、居室に固定電話機を置かれて居る方もおられ、自由に電話されている。施設の電話を希望される方へは、いつでも電話出来るように支援している。長電話になる方は、折り返しホームの携帯電話へかけて頂き話をされている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共有空間には季節の花を飾っている。季節によって雛人形、五月人形を飾っている。又、プランターには旬の野菜を植えたり、利用者様が楽しめるような環境作りに努めている。	
			(外部評価) 事業所の前の道は通学路で、小学生が手を振ってくると、窓越しに利用者が手を振り返すこともしばしばある。玄関を入ると、壁一面の大きさの、ひまわり畑のタペストリーを掛けてあり、壁掛けの輪挿しには、利用者が散歩の途中で摘んだマリーゴールドの花が生けられてあった。ユニットの入り口には、職員の写真と名前をコルクボードに貼り、ご家族が来られた時に見られるようにされている。ご家族からいただいた金魚やめだかの泳ぐ水槽やガラス鉢があり、餌やりが日課になっている利用者がおられる。廊下の一角にソファがあり、一人でちょっと休まれる方もある。午後からは、洗濯物を畳んだり、テレビを囲むように置いてあるソファに座り、テレビを観る利用者もおられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) テレビ前にソファがあり、ゆっくり寛がれていたり談話されたりと、思い思いに過ごされている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れたタンスや小道具を持ち込まれて居る方もおられる。ボードへ写真を貼り、好きなように飾られている。	
			(外部評価) 居室の壁のコルクボードには、外出時の写真や誕生日に職員が送ったバースディカード等を貼っておられる。ぬり絵や書道の作品を貼っておられたり、カレンダーに予定を書いておられる方もあった。フラワーセラピーで作った花を飾っておられた。利用者個々にアルバムが置かれてあり、ご家族や職員と一緒に、アルバムをめくりながら思い出話をされるようだ。毎朝、洋服をご本人に選んでいただけるよう、ハンガーに服をかけておられる。利用者は、洋服を選んで「これどうですか」と、職員に相談されたり、職員がコーディネートアドバイスをされる場合もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 居室の表札やトイレの表示をし、混乱なく生活出来るように工夫している。又、一人一人の状態に応じ、ベッド柵を使用したり、照明のヒモの長さを調整したり対応している。	